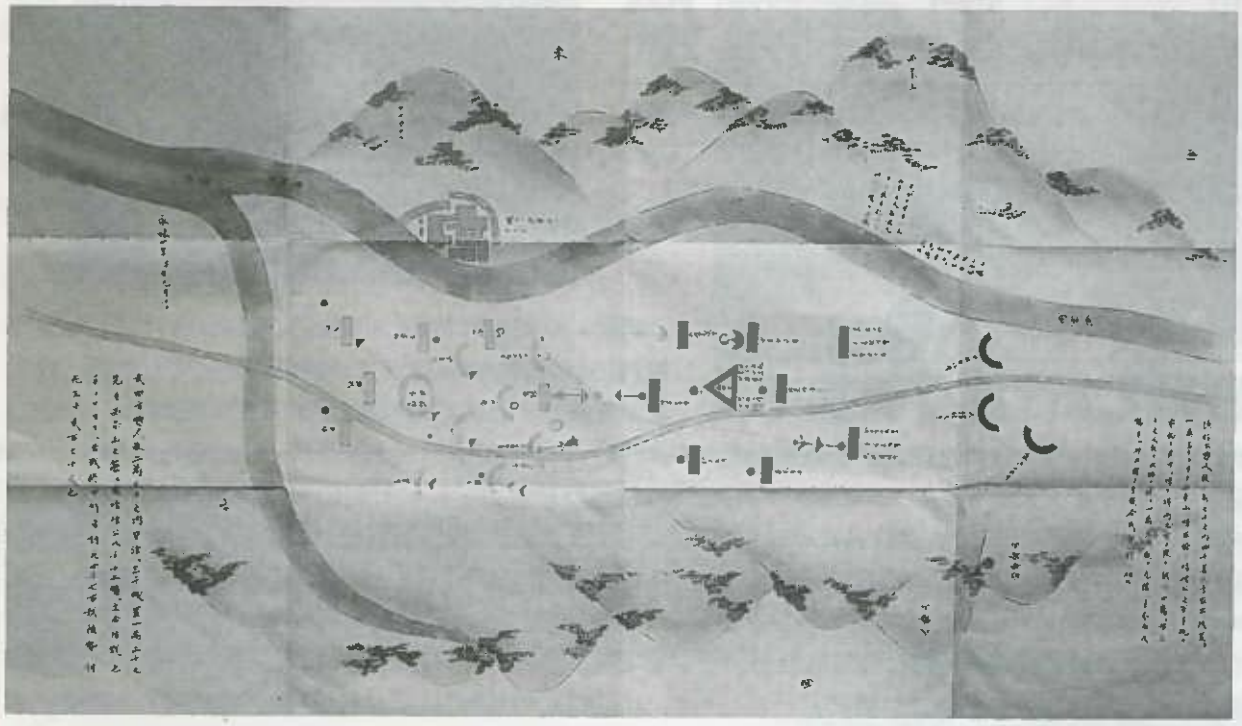
十和田市立　新渡戸記念館だより

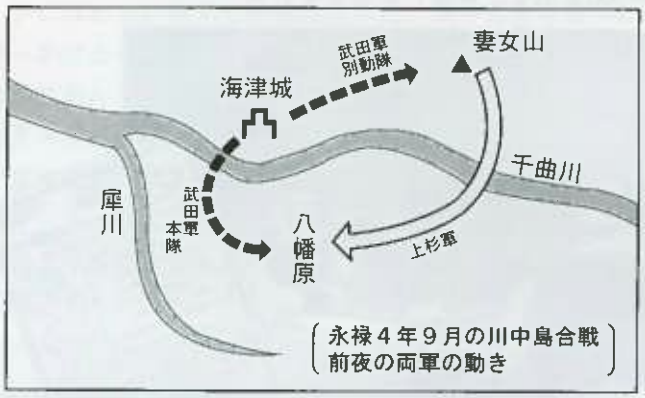


「川中島合戦図」
永禄4年（一五六一）9月の合戦を描いており、新渡戸十次郎が兵法の学習に使用したという絵図。武田軍、上杉軍それぞれの人数や戦況、軍勢の動きなどが導線入りの図解で記されている。
縦六〇・〇×横一〇九・〇（cm）

新渡戸記念館に残る豊富な兵法資料

新渡戸家は代々兵法を良くし、新渡戸維民（これたみ）（新渡戸稲造の曾祖父）は南部盛岡藩の兵法学者でした。その子・傳（つたう）も兵法家であり、傳の子十次郎は若い頃から兵学の才能を見とめられ、32才の時には南部盛岡藩主・利剛（としひさ）の兵学お相手も務めています。特に上杉流の兵法を代々学んでおり、当館には、維民や傳、十次郎が上杉流兵法にもとづいて作図した城郭図や、川中島の合戦をはじめとする歴史的合戦の図など、江戸時代の兵法資料が多く残されています。ぜひ一度ご覧下さい。

（現在「川中島合戦図」を展示中）



武田軍は別動隊が妻女山を攻め、山をおりた上杉軍を本体が八幡原で迎撃する作戦だった。しかし見破られ、先手を打って下山していた上杉軍と武田軍本隊が八幡原で遭遇、大激戦となったと伝えられる。

『川中島合戦図屏風』（個人蔵）部分
「クロニック戦国全史」（株式会社講談社）より転載
川の中で武田信玄と上杉謙信が刀を交える姿が描かれているが直接対決が実際あったかは定かではない。

戦国時代有数の大激戦
川中島の合戦

戦国時代、甲斐（かい）国（現山梨県）の武田信玄が信濃（しなの）国（現長野県）を侵略したのに対し、越後（えちご）国（新潟県）の上杉謙信が川中島（千曲川（ちくまがわ）と犀川（さいがわ）の合流点、現長野市内）に進出し、激突した５回の戦い。特に永禄４年（1561）９月の戦いが有名。この時は総勢四万の軍勢が激突し、約8000人の死者が出たと伝えられる。

2000年５月３日～５日

稲生川上水記念 太素祭開催

太素祭期間は例年通り記念館を無料公開しました。今年は雨にたたられ、来館者が前年より少なかったのが残念でした。３日夜に前夜祭、４日には太素塚境内新渡戸傳墓前において式典が行われました。

傳墓前に祭詞を捧げた後、献花を行う中野渡市長

記念館でクイズ大会 ３日間で399名が参加！

新渡戸記念館では、2000年太素祭を記念する特別企画として太素祭期間中にクイズ大会『クイズで探検！ニトちゃんとあそぼう!!』を開催しました。館内17ヶ所にクイズパネルを設置し、四択クイズを出題する他、記念館の資料をパズルにして、館内３ヶ所にパズルコーナーをもうけました。クイズは難易度を３段階にしましたが、皆さん難易度３の問題には苦労していました。

遠くは徳島県や北海道からと参加者は幅広く、３日間で399名の方に挑戦して頂きました。

▲親子でクイズを楽しむ姿が多く見られました。

当日配付のリーフレット表紙▲

当初、全問正解者について５月６日から６月６日まで館内にお名前を掲示させていただく予定でしたが、残念ながら該当する方がありませんでした。そこで、得点15点～11点までの上位114名様を得点上位者として、またそれ以外の方で「三本木原開拓」「武将」「新渡戸稲造」各コーナー別の難問に、それぞれ全て正解された方々に「開拓博士」（２名）「よろい博士」（４名）「武士道博士」（５名）の各賞を、また３回以上挑戦された方々に「がんばったで賞」（４名）、一番はじめにクイズへ挑戦した方には「いちばんのりで賞」（１名）をお贈りして、お名前を館内に掲示させていただきました。また、この129名様の中から抽選を行い、20名の方々に当館出版の「三本木原開拓ガイドブック」「新渡戸稲造―その魂と言葉の世界―」から１冊をプレゼントいたしました。

パーツごとに分かれた鎧を完成させるパズル。そのほか絵図面や彫刻のパズルも人気でした。

新渡戸記念館ホームページのこどもページ２コーナーが完成しました！

新渡戸記念館ホームページ内「こどもページ」の一部が完成し、６月１日付けで更新しました。今回できたのは記念館の歴史や展示室を案内するコーナー「きねんかんはこんなところだよ！」と新渡戸稲造の足跡を解説するコーナー「新渡戸稲造さんのことしってる？」の２つです。残り２コーナーについても近日公開予定です。

こどもページトップ

記念館のメールアドレスが変更になりました。
nitobemm@hi-net.ne.jp

青森県立郷土館特別展

『撮(うつ)された青森』にて 当館所蔵・新渡戸傳(つたう)写真が目玉に！

6月16日～7月16日まで青森県立郷土館で開催中の特別展『撮された青森―絵はがきと写真で見る近代―』に当館より貸し出した新渡戸傳の写真ならびに傳の日記「新渡戸傳一生記」が、特別展の目玉として展示されました。この写真は、日記などの記述から明治2年（1869）に撮影されたと見られ、特別展に出展の写真資料の中で、最も古いものとなりました。また、新渡戸家にはこの写真のネガとなるガラス原版も残っており、本県写真史をたどる上で重要な資料として展示されました。

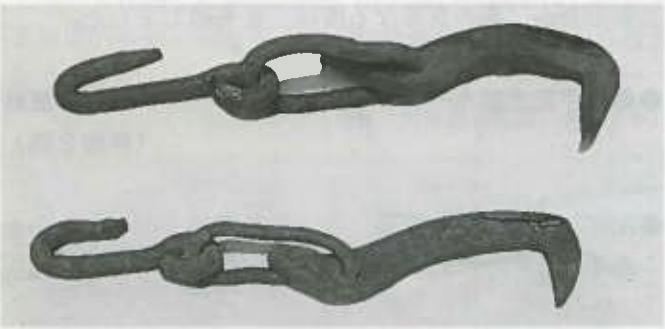
ガラス原版の写真とともに、原板から焼付けされた古い写真、明治2年の日誌の「我写身(真)三度致し」と記されたページが展示されました。また本展最古の写真として、入り口すぐのコーナーに展示されました。

材木商・新渡戸傳(つたう)が活躍した下北地域の山仕事道具4点を寄贈いただきました

このたび上北郡横浜町在住の元製材所勤務・鈴木隆さんから下北地方で昭和初期からつかわれていた山仕事道具4点を記念館に寄贈頂きました。この資料は新渡戸傳の材木商時代を語る上での補足資料として展示などに活用させていただく予定です。

運材道具・キンチョウ

キンチョウ（金釘）は材木を馬などに引かせて運ぶ時丸太の側面に突き刺して使うものです。カギ状部分の後部には反り返りがあり、これは丸太からキンチョウをはずす時にそこを叩(たた)くと簡単にはずれる仕組みになっています。



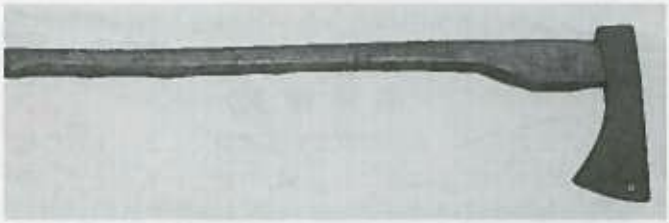
下のキンチョウは鈴木氏が子供のころから家にあったもので、2～30年前までつかっていたという。上の少し大きいものは鈴木氏がそれを真似て30年ほど前に大畑の鍛冶屋に頼み作ったもの。
（㊤ 縦35.4cm・横10.7cm／㊦ 縦30.7cm・横6.6cm）

新渡戸傳は文政7年（1824）頃下北地方を中心に材木商をしていましたが、木曽などの先進地に自ら伐木や運材、製材などの方法を学んで、下北地方の杣(そま)たちに教えたと伝えられています。また、下北郡川内町地方の山仕事道具に「ニトベカギ」「ニトベバサミ」と呼ばれるものがあったことがわかっていますが現在残っておらず、調査中です。「ニトベカギ」についてはその名前からキンチョウのような運材道具だったのではと見られています。

万能の山仕事道具・トビ

トビはおもに材木を移動させる時、尖(とが)った先を材木にひっかけるなどして使います。また鈴木さんの話では、木場に並んでいる材木どうしを離す時など、トビの先端に2ヶ所ある出っ張りや尖った先を上手に使うと、軽々と材木を動かすことができるそうです。またトビ口の背はキンチョウをはずす時、反り返りを叩くのにつかうなど様々な用途に使用され、山仕事には欠かせない道具だそうです。

トビ（縦146.0cm・横27.0cm）
カギ状の部分に特徴がある。
鈴木さんが大畑で購入したもの。



マサカリ（縦85.0cm・横25.7cm）
枝を払ったり、材木の皮をはいだりする時に使う。

ありがとうございました

青森県上北郡横浜町の鈴木隆さんより下北地域の伐木・造材用具（計４点）を寄贈頂きました。

（詳細３面）

関　連　情　報

●太素顕彰会事務局に異動がありました

平成12年４月太素顕彰会事務局スタッフに人事異動がありました。太素顕彰会事務局長を務めた川村俊一商工観光課長が議会事務局次長へ、事務局書記をつとめた蛯名定信主事が介護保健課へ転出しました。後任として福村親男課長が着任、新採用の高松幹主事が新スタッフとなりました。

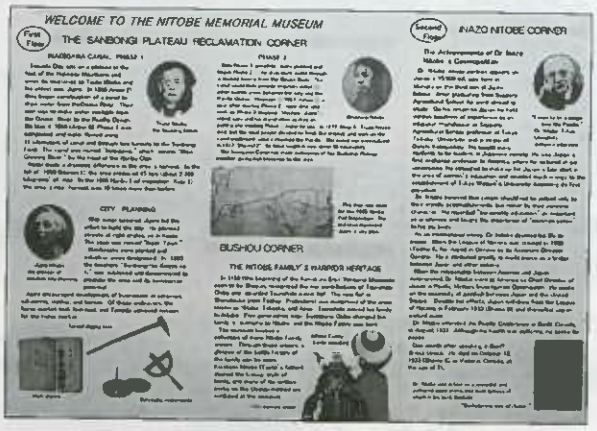
●太素塚・春の清掃奉仕活動

財団法人モラロジー研究所／本瀬戸山老人クラブ／大学通老成会／三本木農業高校生／

皆さんありがとうございました。

●英語版の来館者用パンフレットが完成

十和田国際交流協会・翻訳ボランティアスタッフの方へ依頼していた記念館パンフレットの英訳が完成しました。現在来館者に対するコピーでの配付サービスをしています。ご希望の方はどうぞ記念館までご連絡下さい。



英語版パンフレット

●『むらの小さな博物館―農業農村整備資料館事例集―』で新渡戸記念館紹介

全国土地改良事業団体連合会・社団法人農村環境整備センターで、開拓や水利事業などに関わる資料館等を紹介するガイドブック『むらの小さな博物館―農業農村整備資料館事例集―』を発行しました。当館はこの事例集に紹介されるとともに、事例集表紙に他３館とともに館全景写真が掲載されました。

一番上の写真が記念館全景

●太田常利氏紹介の書『父を憶（おも）う』を太田襄二氏が出版

太田常利氏

三本木原開拓日誌等の解読や、新渡戸記念館の前身「私設・新渡戸文庫」設立に尽力した海軍少佐・太田常利（つねとし）氏（新渡戸傳の孫）の生涯を紹介する書『父を憶う』を常利氏のご子息太田襄二氏が出版されました。この出版には当館として、常利氏解読原稿等の提供などに協力しました。

●平成11年12月１日～平成12年６月30日の来館小学校

（十和田市）米田小学校／高清水小学校／西小学校／伝法寺小学校／松陽小学校（三沢市）三沢基地カミングス小学校（東北町）甲地小学校

活　動　報　告

●モラロジー研究所の月刊誌『れいろう』に館長が随想を寄稿

財団法人モラロジー研究所で発行している月刊誌『れいろう』2000年３月号の随想コーナー「心に残る話」に、当館館長が「農の貴重なる所以（ゆえん）」を寄稿しました。

●新渡戸記念館ホームページ内の子供ページを一部更新

（詳細２面）

●2000年太素祭特別企画「クイズで探検！ニトちゃんとあそぼう!!」を５月３日～５日まで開催（詳細２面）

●一階裏打ち完了資料コーナーを展示がえ

〈編集後記〉

雨にたたられ、人出の少ない太素祭でした。上水には水がつきものにしても、ちょっぴり寂しいものです。それでも館内では「クイズで探検！ニトちゃんとあそぼう!!」を真剣に考える親子の姿など感動的でした。

発　行　太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL（FAX）0176-23-4430
E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印　刷　有限会社 岩間印刷所